

## 議 事 録

会議名	令和元年度 釧路市障がい者自立支援協議会 第1回 教育・療育部会	
事務局	釧路市障がい福祉課 釧路市障がい者基幹相談支援センター	
開催日時	令和元年6月25日(火) 16:00～17:00	
開催場所	釧路市役所 防災庁舎5階会議室B	
出席者	委員	13名
	その他	なし
	傍聴者	なし
	事務局	釧路市障がい福祉課～森脇、辻野、山根 釧路市障がい者基幹相談支援センター～金子、布田
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 挨拶 釧路市障がい者自立支援協議会 教育・療育部会長 井川 哲雄</li> <li>3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 新年度の部会員紹介</li> <li>(2) 令和元年度 教育・療育部会 活動計画について</li> <li>(3) その他</li> </ol> </li> <li>4. 閉会</li> </ol>	

# 議 事 内 容

## (1)新年度の部会員紹介

## (2)令和元年度 教育・療育部会 活動計画について

○事務局より活動予定について報告。

- ・令和元年8月と令和2年2月は医療的ケア児・者支援調整会議の開催を予定しており、実態把握と課題について共有を図ることを目的とする。
- ・放課後等デイサービス事業所見学会の日程について、7月25日(木)～8月2日(金)の平日7日間で実施。見学可能事業所一覧が出来上がり次第部会員へ案内する。
- ・放課後等デイサービスのつどいについて、今年度も6回開催予定。7月9日(火)の放課後等デイサービスのつどいでは、学校との連携をテーマにグループディスカッションを行う。その他、事例検討の実施や、合同部会では研修会の開催についての希望もある。課題としては、放課後等デイサービス事業所ガイドラインに立ち返り整理する事や、ヒヤリハットについての話題もある。

### (放課後等デイサービスのつどいに関する意見等)

- ・顔が見える関係になり、一緒に話が出来るようになってきた為、今後は課題の解決がキーワードになる。事業所と学校がどのように繋がりたいのか、それぞれの意図・目的が異なる現状がある。
- ・パートナーティチャーの動きで見てきた事として、学校は外部との関わりに戸惑いがあるものの、文部科学省からの通達もあり下校時の引き渡し等注意している状況が見られる。
- ・相談支援事業所との繋がりについて、特に普通学校は理解していない状況があり、保育所等訪問支援の状況も含めて、教育支援課との共有も必要。
- ・相談支援事業所が事業所との繋がりを作ってくれたこともあり、そのような関係が今後増えると良いと思うが、事業所によっては受け持っている件数が多くコンタクトが取りにくい場合もある。
- ・相談支援部会と教育・療育部会とでの連携も必要。また、地域生活支援拠点整備事業でも関係することでもある。

### (医療的ケア児・者に関する意見等)

- ・重症心身障がい児・者を守る会で実施しているアンケートの回収率は3割程。現段階では、受診に関する事、移送サービス、今後何かあった時の不安等のニーズが見られる。
- ・保育所に通っている医療的ケア児は昨年度の調査では対象者がいない。児童発達支援センターでは昨年は2年前に転入した児童がおり、年9回と限定的ではあるが、理学療法士や作業療法士による自宅訪問を実施する他、保護者が付き添いのもと通所したケースがあり、保育の課題もある。
- ・医療機関で医療観察入院の体制を整えてレスパイト的な機能を担う事も見られている。学校では保護者が待機してサクションを行なう事があり、今年度に入り看護師の配置もあったが、負担が大きいという課題もある。難病対策協議会では、一人の負担が大きくならないように訪問看護の看護師が持ち回り対応する等の体制作りについての話もあった。
- ・7月20日(土)に医療法人稲生会の小児在宅医療連携事業における研修会で道東の取り組みについて実践検討会を実施。

## 議 事 内 容

### (3)その他

- ・ 事業所見学会について、7月25日～8月2日の平日7日間で実施。  
→連携の事を考えると顔合わせが出来る機会でもある事から、教育支援課を通じて取り急ぎ日程のみ周知する方向性。
- ・ 次回の教育・療育部会と医療的ケア児・者支援検討会議の実施日については8月末で調整。
- ・ 釧路保健所より、11月に医療的ケア児に関する研修会を開催予定。各関係者から研修で聞きたい事を確認したい。

### (意見等)

- ・ 釧路養護学校では医療的ケア児については養護教諭が主に関わっていることから、そこから課題を拾い上げた方がいいと考えている。
- ・ 児童発達支援センターでは、あまり事例はないが、どの時点でどのようなサービス等が必要か、また、外からニーズを聞く事が出来る機会になると良い。

以上